

まちの応援マガジン いなわしろ

広報 猪苗代

Mar.2012

3

No.617

Proud!

東日本大震災の復興を支援しよう

Japan

特集

地域力を育む

守りたい
未来のために—



特集
地域力を育む



Pick Up

今月のイベント

迅速な災害支援のため 素早い情報交換を

国土交通省東北地方整備局と本町は「災害時における情報交換に関する協定（リエゾン協定）」を締結した。

この協定は、災害時に的確かつ迅速な災害対応支援を実施するため、東北地方整備局から各自治体災害対策本部に「リエゾン（災害対策現地情報連絡員）」を派遣し、積極的な情報の収集と提供にあたる制度。

同局では、東日本大震災でも東北地方の自治体にTECFORCEや災害対策車などの派遣、情報提供などの支援を実施している。

調印式は2月29日、町役場で執り行われ、町からは前後公町長、東北地方整備局からは熊谷順子郡山国道事務所長が出席した。

前後町長は「災害時の対応や復旧などにおいて、大変心強い協定。互いに連携を取りながら有事に備えたい」とあいさつ。

続いて、熊谷所長が協定の内容について説明をした後、協定書を取り交わした。

※TECFORCE

緊急災害対策派遣隊。大規模自然災害が発生または発生する恐れがある場合、被災自治体の災害応急対策（被害状況の調査、被害の拡大防止）に技術的な支援を実施する。

まちの応援マガジン いなわしろ

広報 猪苗代

Mar.2012
3
No.617

今月の表紙



吾妻小学校入学を控えた幼稚園・保育所の年長児と1年生の交流会は2月24日、同校で開かれました。朝ごはんや食事の大切さを伝える紙芝居を、笑顔で見つめていた吾妻幼稚園の阿部悠翔くん。もちろん給食は残さず食べました。

【撮影日】 2月24日
【撮影場所】 吾妻小学校

Contents — 【目次】

- 02 Pick up
- 03 特集 地域力を育む
- 10 スクールトピックス & ニュース INAWASHIRO
- 12 まちの話
- 14 被災者の医療費窓口負担免除措置延長について
- 16 笑顔でこんにちは／サークル紹介／保健だより
- 18 学びの泉
- 20 いなわしろタウンページ
- 25 公表します 町職員の給与
- 26 暮らしの情報広場
- 28 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー



2011年8月号 No.610

子どもたちは、震災で何を感じ、何を考えたのか、青少年の主張猪苗代大会の発表内容を抜粋。子どもたちの心の動きや行動から、復興へのヒントを探った



2011年10月号 No.612
震災後、本町ではさまざまなイベントが開催された。それらを通して、自分たちから積極的に情報や元気を発信する町民の姿を紹介した



2011年7月号 No.609

いろいろな想いで、人と人がつながる。人と人のつながりには、想像を超える力がある。そのつながりを育てていけば、やがて絆が生まれる



2011年6月号 No.608

信頼していたものが崩れた時、そこからの復興にも信頼が重要だった。信頼できる正しい情報がほしい。信頼されるものを作り続けたい。信頼とは何かについて考えた



2011年5月号 No.607
最も多いときには3000人以上が避難していた本町。避難者と町民の関わりなどを紹介するとともに、私たちにできることはなんだろうと考えた



2011年4月号 No.606

地震発生直後から町民の皆さんが活躍した様子などを伝え、まずは自分の身を守ること、次に地域で協力し合い助け合うことの大切さを訴えた

「困った時はお互いさま」
互いを思いやったあの気持ち
忘れてはならない。

ような津波の被害はなかったが、96棟の建物が全壊、半壊・一部損壊は1393棟に上るなど大きな被害を受けた。死者はなく、けが人も1人にとどまったのは、不幸中の幸いだった。他の地域と比べ、空間放射線量が比較的低かった本町には、町外から避難者が殺到し、その数は一時3000人以上にも上った。未曾有の大震災の深刻な被害は、テレビや新聞などで毎日伝えられていた。広報でお知らせしたのは、自分たちも被災しながら、困っている人のために何かをしようという町民の姿。震災直後から活動した消防団、地区役員、ボランティア、自分ができることを精いっぱい頑張った子どもたちや事業所など、数え上げればきりが無い。

町民一人一人が真剣に考え、互いのため、避難者のために行動した。強さと細やかなやさしさにあふれた支援は、行政にはない力を発揮した。そこそが猪苗代町民が持つ住民力。

東日本大震災は不幸な出来事だったが、同時に、人と人とのつながりや絆の大切さ、そして町民が持つ住民力を再認識する機会でもあった。

昨年3月11日午後2時46分、震度6弱という強い揺れが本町を襲った。町内各地で住宅、商店や土蔵などが損壊し、道路や上下水道施設も大きな被害を受けた。停電、断水、通行止めに加え、電話や携帯電話も通じにくくなるなど、各地でライフラインが寸断された。輸送路が断たれたため流通は停止。燃料や物資不足も発生するなど生活は混乱を極めた。

そこに拍車をかけたのが、東京電力福島第一原子力発電所の事故だった。目に見えない放射性物質飛散の恐怖は、日本中を震撼させた。

広報で振り返る東日本大震災

発揮された住民力

震災後の4月号から、広報猪苗代ではいろいろな角度から震災の特集を組み、前向きに頑張る町民の姿を紹介してきた。広報の特集を通して、震災からの一年を振り返る。



2012年2月号 No.616

震災後、初めての成人式。復興を担っていく新成人に、現在の心境、夢や復興への思いなどを聞いた



2012年1月号 No.615

震災で見直された人と人との絆。親と子という最初の絆の大切さを伝えた



2011年11月号 No.613

町民はどうしたいのか、行政に何を求めるのかを町民の皆さんに聞いた



2011年12月号 No.614

名君と呼ばれた保科正之公の生涯を紹介。その能力や人物などから、復興への鍵となるヒントなどを探した



2011年9月号 No.611

本町に避難しながら、全国制覇を果たした富岡一中の生徒たち。その頑張りや、両町民だけでなく、多くの県民を励ました

前に向かい力強く進んでいく

求められる

実行力

原発事故の影響を受ける福島県では、放射性物質の問題に急いで取り組まなければならない。身体への影響は？農作物への影響は？そして風評被害をどう払しょくするか。町民や観光客の不安を一刻も早く解消するため、次の一手を打っていく実行力が、今、求められている。

除染計画を策定

東京電力福島第一原子力発電所の事故によって放出された放射性物質は、今もなお、見えないう災害として本町を襲い続けている。町民の皆さんからは、子どもたちの身体や農作物への影響、依然として続く風評被害を心配する声が続く。町では、これまで15歳以下の児童と妊婦への個人線量計の配布や各地区区長会への放射線量測定器の貸し出しなどを実施して不安の解消に努めてきた。これからは町民の皆さんの声に耳を傾け、除染や放射線量の測定などによって、日常生活や健康を守ることに全力を尽くしていく。

除染計画から、主なものを抜粋してお知らせする。
○除染対象地区
対象は町内全域。環境放射線量の測定結果によって、高い地区を優先的に除染を実施します。線量の比較的低い地区内でも、公共性の高い場所や通学路などは優先します。町内全域の除染には長い期間を要し、行政だけでは町内全域を除染することは難しいことから、行政区など町民の皆さんに協力をお願いし、一緒に除染に取り組んでいただきます。
○計画期間
計画期間は28年12月までの約5カ年間とし、25年12月までの約2カ年間を重点期間として取り組みます。
○除染の目標
最終目標は、推定年間被ばく線量を年間1ミリシーベルト以下にすること(国際放射線防護委員会の一般公衆の線量限度)です。町内で生産される米、野菜、果実や牛肉など、すべての農畜産物および牧草、木材、きのこや山菜などの林産物について、放射性物質の未検出を目指します。
○除染の安全確保
町民が自ら安全・確実に



2月28日に実施された除染講習会。各行政区長、PTA役員や町職員などが出席した。

除染ができるよう、除染の手法について、国・県・専門家の指導を受けながら「除染マニュアル」を作成します。今までの放射線量測定値から、短時間の除染作業で健康に影響を及ぼすような被ばくをすることは無いと思われませんが、除染事業者・町民・ボランティアなど作業に従事する人の安全確保に努めます。
○除去土壌などの処理
除染に伴って発生する土壌など(土壌、草木、ごみなど。以下、除去土壌等)は、町が設置する仮置き場に運搬するまで時間がかかると予想されるため、除染した場所の敷地内に仮置きすることを基本とします。町の仮置き場に仮置きした除去土壌等は、国が予定している中間貯蔵施設が稼働しだい、早急に搬出することとします。など。



正確なスクリーニング検査をするためには、1μmまたは1μm程度の食品などが必要。

スクリーニング検査

「家の畑でとれた野菜は食べられるのか」「キノコをもらったけど、食べても大丈夫ですか」町では、町民が口にする食品

などの安全・安心を確保するため、放射能簡易分析装置を使用し、2月23日から食品などの無料スクリーニング検査を実施している。
○検査対象
自家消費農作物(家庭菜園など)、山菜、キノコおよびその他の自家で消費する食品や井戸水などです。検査が終了した食品などは返却します。出荷制限および摂取制限を受けている食品、安全が確認され流通している食品、販売目的の食品などは検査の対象にはなりません。
※土壌も対象外となります。
○持ち込み方法
検査する食品などは、自宅などで洗浄(調理前の状態)し、

可食部をできる限り細かくみじん切りにして、ビニール袋に密封して持参してください(検査場所では切る事ができないため)。井戸水などの液体は、よく洗浄した不用品なペットボトルなどの容器に入れてください。より正確に検査するためには、1リットの容器を隙間なく満たす必要があるため、検査する食品などは1リットルまたは1リットル程度を持参してください。冷凍した食品などは解凍して持参してください。
○予約と検査受け付け
検査日と時間は、電話による完全予約制です。予約は、1人につき1回1品目まで。申し込んだ検査が終了するまでは、次回以降の検査予約はできません。
○検査
予約した検査日時に、検査する食品などを持ってアグリいなに来てください。検査申込書に必要事項を記入して提出していただきます(身分証明書などによる本人確認を実施します)。
○検査結果
検査結果は、検査終了後に検査済の食品などと一緒にお渡しします。検査結果のうち、食品などの名称、採取場所、測定年月日や測定結果は町ホームページなどで公表します。
○予約受付時間
午前9時から午後5時まで

○検査実施場所・問い合わせ先
町地域農業活性化センターアグリいな(旧福島県農業試験場「冷害試験地」)
☎(85)71337(検査専用)
風評被害対策は
一昨年は200万人以上の観光客が訪れた本町。しかし震災後、観光客数は激減。一時期、町内から大型バスの姿が消えた。町商工観光課では、町観光協会などと連携し、首都圏でのPR活動などを実施、風評被害の解消に全力を注いだ。効果は9月ごろから出始め、昨年の観光客数は147万人台まで回復。観光客数の減少を前年比3割までに抑えることに成功した。同課ではスキーシーズンを迎えるにあたり、県外からの誘客を図るため、県外からの宿泊者、先着5000人に町内で使える3000円分のクーポン券(ゆきいち券)を配布するキャンペーンなどを展開。観光客や町内の飲食店などからも好評を博している。

Interview

スクリーニング検査を受けて



●渡辺 貞子さん(不動)

自分一人なら気にしないが、2人の娘や孫のところに送るので検査を受けている。検査結果については、何ベクレル以下ではなく、微量でも数値で表してほしい。放射能問題全般について、国の対応がはっきりしていないのが不満だ。私たちにとっては、命がかかっているのだから。

●阿部 幸弘さん(荻窪)

自宅の畑で収穫した野菜を持ってきた。放射性物質は心配だが、自分一人が騒いでどうなるものでもない。自分の身は自分で守るしかない。猪苗代に以上はしょうがないと思って検査をしている。町の対応は、すべてにおいて遅いので、もっと迅速な対応をしてほしい。

本町は、放射能災害には絶対に屈しない。町民の皆さんや各種団体と協力しながら、皆さんの要望に全力で応え、この苦境を乗り越えていく。

住民と町が協働でつくる未来へ

今こそ地域の力を

この町には素晴らしい住民力がある。町も努力を続けていく。しかし震災からの復興は、町民だけでも、町だけでも成し遂げることはできない。皆さんの意見を施策に反映させ、互いに高めあうことが必要だ。協働で育てていく地域力。この町の、福島県の復興には、それが欠かせない。

3月2日、町内のスーパーの前でアンケートを実施。
●震災後、変わったこと
●現在の生活について思うこと
●復興のため、私たちに何ができると思うか
●町の施策への希望 ●その他
などについて、店を訪れた人に聞いた。

風評被害による観光客減で、仕事が変わった。行政が主体となって、町民と一緒に復興策を進めていくことが大切だ。
(50代 女性)

いろいろな意味で、震災前に戻してもらいたい。復興のためには、日本全体、世のため、人のためになることを自発的にやっていけばいい。
(50代 男性)

原発に代わる電力を考えよう。
(会津若松市 60代 男性)

復興策は、みんなでやるのが大事。じゃないと遅くなる。ごみの置き場がなければ、自分の地域に仮置き場を作るしかないだろう。
(浪江町 70代 女性)

観光PRは重要だが、原発問題が終息しないと、効果が上がらないのでは？
(40代 女性)

震災後、非常持出袋を備えた。
(80代 女性)

東京電力で修復作業をしている人たちに頑張ってほしい。
(30代 女性)

郡山市は依然として放射線量が高いが、マスクをしない人や外で遊んでいる子どもが増えた。原発事故直後の危機感が薄れているのが怖い。
(郡山市 20代 女性)

この状態はいつまで続くのか今は将来像が見えない。
(30代 女性)

避難生活をしている人が、雪で困っている。町で何とかできないか。
(30代 女性)

県内全域で除染に取り組むべき。
(70代 男性)

災害時、電話がつかない時の対応を家族で話し合い、ツイッターを覚えた。
(40代 女性)

ガソリン不足を体験し、半分を切ったらガソリンを入れるようになった。
(50代 女性)

非常時にすぐ逃げられるようくつを近くに置くようになった。
(50代 女性)

奥さんの実家が猪苗代の農家。風評被害で苦しみ現状を知っている。東京に戻ったら、自分が福島のアナウンサーになって安心・安全を発信する。
(東京都 20代 男性)

子どもが小さいので、雪が溶けた後の放射線量が心配だ。
(30代 女性)

国に任せていると復興は進まない。県からどんどん発信し、国には強い態度で臨んでほしい。
(郡山市 20代 女性)

食べ物の安全性に不安を感じる。
(50代 男性)

不安があるのは分かるが、放射線量など科学的な根拠に基づいて判断をしないと、がれきの撤去は終わらない。どこかで共有しないと復興は進まない。
(50代 男性)

日本に大きな被害をもたらした東日本大震災から、1年が経過した。

震災直後、本町の被災を知り、遠くから駆け付けてくれた長野県伊那市をはじめとする各市町村の支援などには本当に助けられた。日本中、世界中から届いた物資、義援金や人的協力などの善意は、私たちは一人ではないうという証だった。

未曾有の大災害の最中に、多くの人が、人を思いやる気持ちのありがたさ、大切さを感じていたのではないだろうか。

この震災では、被災地である猪苗代に避難者が殺到し、「被災地が被災地を助ける」という事態が起こった。しかし本町では、多くのボランティアや町民の活躍によって、大きな混乱も起きなかった。町民の「自分たちができる範囲の手伝いをしたい」という気持ちは、避難者の心に響いたのではないだろうか。

福島第一原発の現状について、政府は収束宣言を出した。しかし原発事故の影響ということでは、まだまだ時間がかかるだろう。1年が過ぎた今でも、古里に戻ることができず、避難生活を送っている人たちがいる。福島は、まだ災害の渦中にあるのだ。

私たちが目指す復興は、単に建物などを元通りに戻すことではない。震災以前よりさらに素晴らしい猪苗代をつくること。さらに素晴らしい福島県をつくることだ。そのためには、これから沿岸部の市町村と内陸部の市町村が協力し合い、一緒に福島県の復興を目指していくことが必要だ。

町では、このほど復興計画を策定した。今後は、この計画の5つの目標である
①安全・安心な暮らしの確保
②地域経済の再興
③社会資本基盤の整備
④災害に強いまちづくりの実現
⑤継続可能な再生可能エネルギーの導入

を柱に、それぞれの事業に取り組む、復興を進めていく。今後の事業実施にあたっては、どれだけ町民の意見を反映し、町の実情に沿った復興策を講じていくことができるか。つまり町民と町が協働で、この町の地域力を高めるような成果を上げられるかが重要なポイントだ。町民だけでは難しい、町だけでも無理。町の復興の鍵は、町民と町が互いに協力し、協働の中で猪苗代の地域力を高めていくことにある。

特集 地域力を育む 終わり

Elementary school



食への関心づくりの一助へ

平成23年度ふくしまっ子食育推進ネットワーク事業「わたしが作る!! おすすめランチコンテスト」の表彰式は2月21日、町役場で挙行されました。

この事業は、親子で献立を作ったり、地元の食材について学んだりして、家庭や地域ぐるみで子どもたちに望ましい食習慣をつくることを目的に実施されています。表彰式では、土屋重憲教育長が「知、徳、体の根本にあるのが毎日の食事であることを知ってほしい」とあいさつ。入賞者一人一人に表彰状と記念品を手渡しました。

最高賞の優秀賞を受賞したのは、吾妻小学校の林部 柊太さん(3年)が作った「バランスよくいろいろたべようランチ」。林部さんは「お母さんと一緒に考えて作ったメニュー。キノコや野菜などをたっぷり入れた具だくさんのみそ汁が気に入っています。頑張って作ってよかった」と受賞を喜びました。



写真上 土屋教育長から表彰状を受け取る林部さん。3月1日には、林部さんの考えたランチが町内の各小学校の給食に登場しました
写真下 表彰を受けた各小学校の児童ら

High school



高校3年間の思い出を胸に

猪苗代高校の卒業式は3月1日、同校の体育館で執り行われ、普通科、国際観光科合わせて75人が思い出の学びやを後にしました。

荒井一成校長が、卒業生全員に卒業証書を授与し「これからは、それぞれが選んだ道を責任を持って歩むことになる。周りの人を大切に、その絆を深めながら生きてほしい。3年間で学んだ英知、忍耐、勤勉の校訓を生かし、さらに経験を積み、立派な社会人になってください」と式辞を述べた後、小松山善継県議、前後公町長らが祝辞を述べました。

在校生代表の加藤美希さんが「先輩たちの母校への思いを受け継ぎ、頑張っていきます」と送辞。

卒業生代表の大川原伸幸さんが「3年間で多くのことを学んだ。これからは、福島県人としての誇りを胸に、それぞれの夢を実現するために頑張っていく」と力強く決意を述べました。



写真上 卒業生代表の大川原さんが「福島県人としての誇りを胸に頑張っていく」と力強く答辞を読み上げた
写真下 「先生、ありがとうございました」涙を浮かべた卒業生たちが最後のあいさつ

スクールトピックス & ニュース INAWASHIRO



春からは一緒に頑張ろうね

吾妻幼稚園、中ノ沢保育所と吾妻小学校の交流会は2月24日、同校で開かれました。この日、同校を訪れたのは幼稚園、保育所の年長児12人。

開会式では増井陽一校長が「小学校はどんなところかを1年生が説明します。今日は楽しく過ごしてください」とあいさつ。年長児らは、1年生17人と一緒に歌ったり、遊んだりしながら交流を深めた後、校内を見学しました。

給食の前には、古田晶美栄養士が朝ごはんを食べることの大切さなどを紙芝居で説明。児童らは笑顔でうなずきながら紙芝居に見入りました。

幼稚園の佐藤泉起くんは「カレーうどんのスープがおいしかった。1年生になってもたくさん食べます」、保育所の磯川琉聖くんは「みんなと一緒に遊べたのが楽しかった。デザートがおいしかった」と感想を話しました。



写真上 みんなが一番楽しんでいたのは、やっぱり給食。この日のメインはカレーうどんでした
写真下 1年生はおみせやさんごっこで年長児をもてなしました



川桁保育所に新しい商店街

川桁保育所の児童らは2月28日、恒例の「おみせやさんごっこ」を楽しみました。

保育所の廊下に作られたミニ商店街では、年長児のさくらA組とB組の子どもたちが自分の好きなお店を出店。食べ物、アクセサリー、お面、ゲームやおもちゃなどのお店が並びました。

「いらっしゃいませ」と威勢のいいかけ声が響く中、小さな子どもたちが商店街に登場。子どもたちはお目当ての品を見つけると歓声を上げながら買い物を楽しみました。

食べ物屋さんを出した國井結いちゃん(A組)と鈴木百華ちゃん(B組)は「作ったお菓子が売れてよかった。みんなが来てくれてうれしかった」と笑顔。

何かを考え込み、つぶやきながら買い物をしていた深谷琥太郎くん(もも組)。耳を傾けると「これはママにあげようかな…」と話していました。



写真上 「これくださいー」笑顔で楽しそうに買い物をする子どもたち
写真下 「お土産どうしよう」「これなんかいいんじゃない」そんな会話が聞こえてきそうな2人

Elementary school & Kindergarten & nursery school

Nursery school



私たちに今、できることを

中学生らが雪かきのボランティア



ほとんどの生徒が雪かきは初めての体験でした

茨城県那珂市の那珂市立第一中学校の1年生115人は2月3日、町内の仮設住宅など4カ所で除雪のボランティアに取り組みました。同校は毎年、1年生の宿泊学習で町内のスキー場を訪れており、そんな縁からボランティアを申し出たものです。

川桁の仮設住宅の除雪には、1年1組の生徒29人が参加。スコップやスノーダンプなど、使い慣れない道具を手に雪かきに励みました。同クラスの小林桃華さんは「せっかく震災後の福島に行くので、自分たちにできることを考えた。雪かきは大変な作業だと思った」と感想を述べました。

生産から販売までを一本化

町農業活性化協議会が設立される



設立総会であいさつをする前後町長

猪苗代町農業活性化協議会の設立総会は2月1日、町役場で開催されました。同協議会は、23年度まで町の農業振興のために活動してきた猪苗代町水田農業推進協議会と猪苗代町担い手育成総合支援協議会が1つになり、新たに組織したものです。

農業者の生産活動のサポートから、農産物などが消費者の食卓に上るまで、「農村の6次産業化」「食料自給率の向上」「食の安心・安全」をキーワードに、町内の関係者・関係団体が一致団結して活動することを目的に設立しました。

風評被害に負けない、強い猪苗代の農業を目指します。

県代表としての健闘を報告

中学生がスキー大会の成績を報告



県代表として活躍。入賞を報告した生徒ら

東北中学校、全国中学校スキー大会に出場した東中学校と猪苗代中学校の生徒らは2月8日、町役場を訪れ、前後町長、土屋教育長らに入賞を報告しました。選手たちは「入賞できてうれしい。支えてくれた皆さんのおかげ」と感謝の言葉を述べました。

- ・東北大会結果（丸数字は学年）
距離男子リレー 第5位 東中（神汰輝②、鈴木蓮②、安部晃史③、齋藤涼③）
コンバインド 第4位、ジャンプ 第7位 渡部大輝（猪中②）
- ・全国大会結果（丸数字は学年）
コンバインド 第9位 渡部大輝（猪中②）
距離男子リレー 第10位（神②、大川原一彰 東中②、安部③、鈴木健大 猪中③）
距離女子リレー 第10位（武田里緒菜 猪中②、渡部未朋 猪中③）

鈴木マエさんが満100歳に

長寿を祝い、知事賀寿などを贈呈



前後町長（左）から賀寿を受け取る鈴木さん（右）

2月7日に満100歳の誕生日を迎えた鈴木マエさん（桜ヶ丘）への知事賀寿贈呈式は同日、特別養護老人ホーム咲楽の里で挙行され、出席した家族や同施設の職員らが長寿を祝いました。

山口靖明会津保健福祉事務所長、前後町長や戸田忠義町老人クラブ連合会長が賀寿や記念品を贈ると、鈴木さんは元気な声で「ありがとうございます」とお礼の言葉を述べ、三女の岩崎典子さんからの花束には笑顔を見せました。あいさつに立った次女の永瀬圭子さんは「若い頃は婦人会長などを務めた元気な人。この先も健康な生活を送ってほしい」と感謝の言葉を述べました。

猪苗代の寒さに負けないで

町ライオンズクラブがウェア寄贈



左から佐賀会長、田島さん、西山さん

猪苗代ライオンズクラブによる避難児童・生徒へのスキーウェアの贈呈式は2月8日、町役場で執り行われ、浜通りから避難し、本町で生活する児童・生徒ら68人にスキーウェアと手袋が贈られました。同クラブの佐賀幹夫会長は「スキーウェアや防寒着として活用し、寒さに負けず健やかに過ごしてほしい」とあいさつ。児童・生徒代表の西山耕介さん（猪苗代小学校4年）と田島優乃華さん（猪苗代中2年）にウェアなどを手渡しました。

田島さんは「とても厳しい寒さだが、支援してくれる人のために頑張りたい」とお礼を述べました。

町の農産物などの安全PR

伊豆マラソン大会で物産展を開催



行列に並び、本町のそばを味わった細野豪志環境相（右）

町と町観光協会は2月19日、静岡県三島市で開催された第5回伊豆マラソン大会の会場で、物産展と観光PR活動を実施しました。これは「東京電力福島第一原発事故の影響による風評被害解消の一助になれば」との三島市の申し出で実現したものです。

町商工観光課などが企画し、米や漬物などの町内産品16品と町振興公社のそばを販売。そばは用意した700食以上を完売、他の商品もほとんど売り切れるなど、大会参加者や応援に訪れた家族の東北を応援しようという気持ちがうれしいイベントとなりました。



被災した皆さんの医療費窓口負担 3月以降も免除措置を延長します

東日本大震災で被災した皆さんの医療機関などでの窓口負担(1～3割)は、2月29日まで免除されていましたが、以下の皆さんについては、3月1日以降も引き続き免除が延長されます。

ただし、入院時食事療養費と入院時生活療養費の標準負担額および療養費(柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の施術費、治療用器具など)の自己負担額の免除は、2月29日分までとなります。

●免除を受けられる期限と対象者

1. 原発事故による警戒(避難指示)区域、計画的避難区域、旧緊急時避難準備区域、特定避難勧奨地点の人(加入している医療保険の種類は問いません) ※1

→ 25年2月28日まで

2. 上記以外で、以下の要件に該当する国民健康保険、後期高齢者医療制度および全国健康保険協会(協会けんぽ)に加入している人 ※1 ※2

→ 24年9月30日まで

<免除要件>

(1) 災害救助法の適用地域(東京都を除く)や被災者生活再建支援法の適用地域の住民(地震の発生以後、被災地域から他市町村へ転出した人を含む)であり、

(2) 以下のいずれかに該当する人

- ① 住家の全半壊、全半焼またはこれに準ずる被災をした人
- ② 主な生計維持者が死亡または重篤な傷病を負った人
- ③ 主な生計維持者の行方が不明である人
- ④ 主な生計維持者が業務を廃止・休止した人
- ⑤ 主な生計維持者が失職し、現在収入がない人
- ⑥ 原発事故に伴い、警戒区域、計画的避難区域および旧緊急時避難準備区域に関する指示の対象

問い合わせ先
町民生活課国保年金業務
☎(62)2114

となっている人

⑦ 特定避難勧奨地点に居住しているため、避難をしている人

●免除証明書の取扱いについて

国民健康保険、後期高齢者医療制度および全国健康保険協会(協会けんぽ)に加入している人は、有効期限欄に「平成24年2月29日まで」と記載されている発行済みの免除証明書でも、24年9月30日まで引き続き使用することができます。 ※3

免除証明書について不明な点がありましたら、下記の医療保険の保険者に問い合わせてください。

【国民健康保険】

町民生活課国保年金業務 ☎(62)2114

または加入している国民健康保険組合

【後期高齢者医療制度】

町民生活課国保年金業務 ☎(62)2114

または福島県後期高齢者医療広域連合

☎024(528)9025

【全国健康保険協会(協会けんぽ)】

全国健康保険協会福島支部 ☎024(523)3916

【上記以外の健康保険など】

加入している各医療保険の保険者またはお勤め先の事業所

※1 震災発生後、他市町村へ転出した人を含みます。

※2 その他の医療保険に加入している人は、保険者(各健康保険組合、共済組合など)により対応が変わりますので、詳細は加入している保険者に問い合わせてください。

※3 その他の医療保険に加入している人で、引き続き窓口負担が免除される人は、免除証明書の更新が必要です。

全力尽くす姿に大きな声援

本町と郡山市でSO福島大会開催



カメリーナで開催されたフロアホッケー

2012年第5回スペシャルオリンピックス(以下SO)日本冬季ナショナルゲーム・福島大会は2月10日から12日までの3日間、本町と郡山市を会場に開催されました。NPO法人SO日本が主催するこの大会には、33都道府県から選手やコーチなど約900人が参加。町内では、沼尻スキー場でスキー・スノーボード・スノーシューイング、カメリーナでフロアホッケーが開催され、アスリートたちがメダルを目指して全力を尽くしました。

競技に励むアスリート、応援に駆け付けた家族やボランティアの笑顔は、福島復興への大きなエネルギーになりました。

新しいまちづくりに向けて

町振興計画審議会が答申書を提出



答申書を見つめる前後町長と審議会の鈴木武喜会長(右)

町では19年4月に第六次猪苗代町振興計画(10カ年計画)を策定しました。本年度は前期5年の最終年度にあたることから、猪苗代町振興計画審議会を開催し事務事業の点検と評価を実施。今後の重要課題である少子高齢化対策の充実や生涯福祉体系の確立など、必要な施策を見直し後期基本計画を策定しました。

後期基本計画では新たに「東日本大震災からの復旧・復興」を施策のひとつに加え、安全・安心な暮らしの確保、地域経済の再興、災害に強いまちづくりの実現、再生可能エネルギーの導入を施策の柱とし、その速やかな実現に全力で取り組んでいきます。

皆さんと作った広報が入賞

広報猪苗代が県コンで佳作を受賞



一枚写真佳作の7月号(左)と広報紙佳作の12月号(右)

第57回福島県市町村広報コンクール(県・県広報協会主催)において、広報猪苗代が広報紙・町村の部、一枚写真の部でそれぞれ佳作を受賞しました。表彰式は2月20日、県庁で執り行われました。佳作となったのは、特集「不変の羅針盤」を掲載した12月号と7月号の表紙写真。

表彰を受けたのは町ですが、受賞できたのはいつも快く取材に応じてくださる町民の皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。これからも皆さんを応援するまちの応援マガジンとして頑張っていきますので、よろしくお祈りします。

みんなで一緒に楽しく子育て

子どもと家族が一緒に楽しく遊べる場所を紹介します

今月は、母と子の遊びの教室「ちびっこランド」と、子どもとみんなの広場「子育てサロン・日向ぼっこ」を紹介します。

町では、個別の育児相談も実施しています。気軽にご連絡ください。子どもの発育や発達に心配な人や発育経過を見ていきたい人は、定期の健康相談をご利用ください。

▼問い合わせ先
保健福祉課 健康づくり業務
☎(62)2115

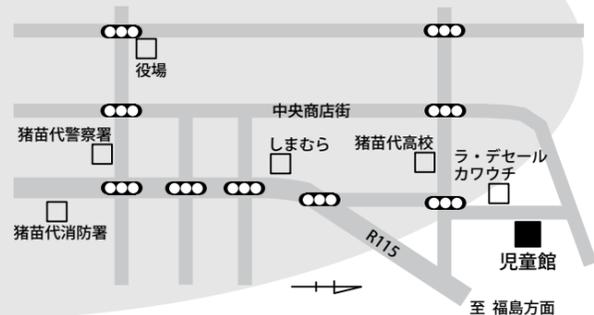
ちびっこランド



年に前期・後期の2コースを実施します。1コース5回で、月1回10時から12時まで遊びます。2歳以上の親子20組限定で募集しています。家ではできない遊びや集団での遊びをみんなで一緒に楽しみましょう。お子さんの意外な一面が発見できますよ！おいしい手作りおやつもあります。

- 場所 町農村環境改善センター
- 問い合わせ 保健福祉課 健康づくり業務 ☎(62)2115

ひなた日向ぼっこ



子育て中の家族が気軽に立ち寄り自由に遊び、親子の交流や情報交換ができる「屋根のある公園」のような場所…それが日向ぼっこです。第1・3土曜日、第2・4水曜日と日曜・祝日以外、毎日10時～16時まで開いています。小さな赤ちゃんからOK、家族の都合のいい時間でOK、弁当持参もOK、そして無料。とにかく一度足を運んでみませんか。

- 場所 猪苗代町児童館
- 問い合わせ 保育士 鈴木サチ子 ☎(62)5167



大好きなパパとママの間で笑顔の煌くん

ほとんど人見知りせず、誰と会ってもにこにこしているという煌くん。「今のまま、社会的な人間になってほしい」とパパとママは話します。

六角 煌くん

平成23年4月生まれ
～金曲
新さん・理香さん夫婦の長男

伝い歩きとハイハイで常に家族の誰かを追いかけている元気な煌くん。最近のお気に入りには、軽トラックのおもちゃやチキンラーメンのコマーシャル。あのCMが流れると、テレビにくぎ付けになって見つめています。おじいちゃんやおばあちゃんなど、家族みんなが大好き。でも、お風呂だけはパパと一緒にやないと大あばれするというこだわりの一面も。

そんな煌くんをママの理香さんは「家族の中心で、わがまま放題です」と笑顔で見つめます。

建築業のお父さんと一緒に、仕事の打ち合わせや内覧会にも出掛けるという煌くん。いつもお客さんを笑顔にさせるその姿は、ホーライハウジングの小さな営業マンです。

※「笑顔でこんにちは」に掲載希望の人は広報担当まで申し出てください。☎(62)2111

サークル紹介

Circle introduction

「手作り絵本の会」は、自分たちで絵本を作ろうと20年以上前から活動を続けている、町内でも老舗のグループです。現在は6人で活動をしています。

絵本を作るため、いろいろな絵本を読んで勉強している間に「読み聞かせ」の活動を始めました。毎月第3水曜日、猪苗代小学校での活動のほか、町内各所で読み聞かせをしています。

「小学校低学年では、深い内容までは読み取れないことがある。読んで聞かせることで『なるほど』と理解し、絵本が面白くなる。私たちはそのお手伝いをしています」と話す宇月代表。

「読書が好きになると、理解力や集中力が増し、学力も上がる傾向にあります。子どもたちには、ぜひ多くの本を読んでほしい」と笑顔を見せました。

※このコーナーでは、活動をPRしたい団体を募集します。希望する団体は広報担当まで問い合わせてください。☎(62)2111

手づくり絵本の会

(宇月 静子代表)



(写真左) 子どもたちも参加して「大きなかぶ」の読み聞かせ
(写真右)「子どもたちに本を好きになってほしい」と話す宇月代表



町内の子どもたちの情操教育に役買うメンバーの皆さん



体験交流館ニュース

■学びいなではヘルシー・アスリート・プログラムを実施

2月10日から12日にかけて本町で開催されたスペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム福島大会。カメラーナ、沼尻スキー場、磐梯熱海アイスアリーナの3会場を舞台に、アルペンスキーなどの7競技に33都道府県から897人(選手575人、コーチ322人)が参加し、熱戦を繰り広げました。

学びいなではこの大会に先立ち、ヘルシー・アスリート・プログラムが開催され、多くのアスリートでにぎわいました。ヘルシー・アスリート・プログラムとは、アスリートの健康やトレーニング・競技をする能力を高めることを目的にさまざまな種類の健康チェックが受けられるプログラムです。健康を自己管理していくための保健医療や教育を受ける機会が限られている知的発達障害のある人と、医療専門家や医療系の学生の相互理解を促しながら、アスリートの健康チェックの機会も増やせると1996年に米国のスペシャルオリンピックスから導入されました。

当日は、会場を6つのブースに区切り、スペシャルスマイルズ(口腔)、オープニングアイズ(目の健康チェック)、ヘルシーヒアリング(聴力)、ヘルスプロモーション(栄養・生活習慣)、フィットフィート(足のケア)、ファンフィットネス(理学療法)などのプログラムを実施。述べ413人のアスリートが参加しました。

福島県立博物館からのお知らせ

■冬の企画展『小さなもの集まれ!』 一 雑道具から古民家模型まで一

「小さなものは愛らしい!」「小さなものは美しい」小さくなるだけでなぜか不思議な魅力が出てきます。今回の企画展の中心となるのは、小さな雑道具のコレクションと古民家模型、そして裁縫雛型など。

雑道具は、根っからのミニチュア好きという川内由美子さんのコレクションの数々。今回のコレクションは本邦初公開で、しかも公開数は1,000点を超えるという大規模なものです。

古民家模型は、いわき市在住の夢想庵こと菅野清八さんが作り上げた自信作の数々。正確な調査の上に作られた、本物そっくりの精密なものです。そのほかにも、虫眼鏡やルーペなしでは確認できないほどの小さな仏様や神様が彫りつけられている微細彫刻や各種のミニチュア模型などを展示します。

生涯学習講座のお知らせ

■歩きながら心と体をリフレッシュ

今年も「てくてく歩きま専科」を開催します。ウォーキングを楽しみながら、季節の移ろいや自然に触れ、心と体をリフレッシュしましょう。



- 講師：いなわしろ伝保人会
- 対象：1時間程度歩ける健康な人
- 定員：30人(定員を超えた場合は抽選になります。抽選に漏れてもキャンセル待ちで参加が可能です)
- 参加費：各回700円
- 申し込み締切日：4月10日(火)までに学びいなに申し込んでください。

- ①4月20日(金) 場所：逢瀬公園
 - ②5月29日(火) 場所：猪苗代街中散策
 - ③6月15日(金) 場所：湖南町・馬入新田
 - ④7月3日(火) 場所：磐梯町・慧日寺
 - ⑤8月7日(火) 場所：会津街道・強清水
 - ⑥9月14日(金) 場所：磐梯山周辺
 - ⑦10月9日(火) 場所：裏磐梯周辺
 - ⑧11月6日(火) 場所：喜多方市・日中ダム
- ※時間はいずれも午前8時30分～正午。靴、帽子、雨具などウォーキングのできる服装で飲み物、おやつやタオルを持参してください。

●問い合わせ先 いなわしろ伝保人会 五十嵐牧子
☎090(2955)4957

野口英世博士顕彰記念町内小学校スキー大会

■町内6小学校の5、6年生が熱戦 距離リレーは男女とも吾妻小がV

第40回野口英世博士顕彰記念町内小学校スキー大会は2月7日(木)、アルペン大回転競技が猪苗代スキー場、距離クラシカル競技が猪苗代町クロスカントリースキーコースを会場に開かれました。

町内6小学校の5、6年生から、アルペン競技に205人、距離クラシカル競技に99人が出場。入賞や自己記録更新を目指して一生懸命頑張りました。詳しい結果は以下のとおりです。

【アルペン大回転競技】

- 小学5年男子①柳沼駿介(長瀬)39秒37 ②野矢隆史(長瀬)③田崎綾人(緑)④荒川奨太(緑)⑤菊地元(長瀬)⑥小林俊也(千里)
- 小学6年男子①渡部大輝(長瀬)37秒13 ②大坂龍裕(長瀬)③佐藤大地(長瀬)④佐藤廉(猪苗代)⑤斎藤透磨(緑)⑥羽賀司(猪苗代)
- 小学5年女子①伊藤睦(猪苗代)37秒78 ②半澤ひなた(長瀬)③神千夏(長瀬)④涌井由佳(猪苗代)⑤星祈音(猪苗代)⑥岡野綾乃(千里)
- 小学6年女子①高橋星那(長瀬)37秒46 ②加藤咲希(緑)③倉上舞(猪苗代)④山口海玖(長瀬)⑤田母神梅香(長瀬)⑥涌井明穂(猪苗代)

【距離競技】

- 小学5年男子①青木剛(翁島)8分28秒21 ②松本陵汰(長瀬)③五十嵐翔音(吾妻)④安部嘉葵(緑)⑤鈴木康之(緑)⑥星野秀正(千里)



アルペン大回転(左上)と距離リレー(右下)に挑む選手たち

- 小学6年男子①一ノ瀬和成(吾妻)7分33秒29 ②長峰悠真(千里)③青木智哉(長瀬)④渡部璃斗(千里)⑤佐藤凱矢(千里)⑥安部哲平(緑)
- 小学5年女子①鈴木まどか(吾妻)8分50秒23 ②土屋菜奈(千里)③佐藤三紀子(吾妻)④棚木芽依(長瀬)⑤佐賀なつ芽(翁島)⑥井上香耶(猪苗代)
- 小学6年女子①小林萌々(千里)9分6秒90 ②古川あさひ(吾妻)③佐藤美澄(長瀬)④大槻佳乃子(千里)⑤川井千乃(翁島)⑥江尻由羅(長瀬)

【距離リレー】

- 男子①吾妻(一ノ瀬和成、増子勇次郎、五十嵐翔音)22分47秒3 ②長瀬③千里④緑⑤翁島⑥猪苗代
- 女子①吾妻(鈴木まどか、古川あさひ、佐藤三紀子)24分0秒4 ②千里③長瀬④翁島⑤猪苗代⑥緑

教育委員会コラム

第二十二回

♪仰げば尊し我が師の恩♪
東日本大震災からあつとと言う間に一年が過ぎ、また卒業式の季節が巡ってきた。学校時代に出会う「先生」の影響は、時に人の一生を左右する。野口英世博士も、小学校時代から多くの先生方の指導、影響を受け世界の医聖となった。

野口に大きな影響を与えた先生の一人に、松本順次郎先生がいる。松本は、嘉永3年(1850)長崎で生まれ、明治7年(1874)、24歳で開校初年の大阪師範学校に入学、翌年優秀な成績で卒業した。東京や栃木の小学校で勤務後、明治20年(1887)本県塩川町の四奈川小学校(堂島小学校の前身)を経て、翁島小学校の前身三ツ和小学校に校長兼訓導(現在の教諭)として赴任、野口清作と出会った。
多感な時期を暮末激動の長崎で過ごしたせいか、先進的な考えの持ち主で、在職期間はずか一年に過ぎなかったが、野口に初めて英語を教え、世界に目を向けさせるなど決定的な影響を与えている。初等科を一番で終えた野口が、上級クラスに進んだ時、松本は野口を「生長(学級委員長)に任命した。さらに村当局と交渉し、何がしかの手当てを与え、臨時教員として下級生の指導にも当たらせた。特定生徒の特別扱いの問題は残るが、こういうのは後にも先にもない。野口が猪苗代小学校高等科進学を決意したのも、三ツ和小学校卒業試験で小林栄先生に出会ったからだ。(土屋)

保健

インフルエンザ予防接種の負担軽減

昨年の広報11月号でお知らせしましたが、負担軽減者に該当する人で、接種費用を全額で支払った人は、接種料金の全額または一部が戻ります。左記の書類を持参の上、町役場保健福祉課窓口で3月31日までに手続きをしてください（接種を受けた高齢者で医療機関に2千円を支払った人は、町助成との差額なので手続きは必要ありません）。

- ▼持参書類
領収書、接種済証、銀行またはJAの通帳、印鑑
- ▼申し込み・問い合わせ先
保健福祉課 健康づくり業務
☎(62) 2115

3・4歳は日本脳炎の接種時期です

町では、新ワクチンによる日本脳炎1期の定期接種を昨年度から再開しました。日本脳炎の標準接種年齢は3歳です。子どもが3歳になったら、早めに接種を受けさせましょう（3歳未満の接種はできるだけ避けてく

ださい）。

今年度4歳の子どもで1期の初回接種（2回）を受けた子どもは、2回目の約1年後に1期の追加接種を受けさせましょう。今年度4歳で、まだ1度も接種を受けていない子どもには速やかに接種を受けさせてください。

- ▼接種料金
町が負担します。
- ▼接種方法
医療機関で個別に接種を受けてください（最近転入したばかりなどで対象となる子どもがいる人は、町保健福祉課まで連絡してください）。
- ▼問い合わせ先
保健福祉課 健康づくり業務
☎(62) 2115

全ての人が楽しく共に暮らす社会を

毎年4月2日は、国連が定める「世界自閉症啓発デー」です。また、4月2日〜8日は「発達障害啓発週間」となっています。発達障害は、先天的な要因による脳機能の障がいです。広汎性発達障がい（自閉症やアスペルガー症候群）、ADHD（注意欠陥多動性障がい）、LD（学習障がい）・知的発達に大きな遅れはないのに、学習面でつまづき（など）、といったものがあります。

発達障がいと一言でいっても、その特徴は一人一人違います。例えば、自閉症の人には、周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない、こだわりが強い、想像することが苦手といった特徴があります。しかし、ことばの理解が苦手でも、視覚的なもので理解することが出来たり、行動の習慣化などによって生活を送ることが出来ます。また、芸術面で優れます。

た才能を発揮する人もいます。すべての人が共に暮らしやすい社会を作るためには、障がいがある人に対して周囲の人々がゆとりとした気持ちで接すること、そして、障がいに対して理解を深めることが重要です。この機会に、障がいがある人への接し方について考えてみてはいかがでしょうか。

- ▼問い合わせ先
保健福祉課 社会福祉業務
☎(62) 2115

生活

「もしも」の交通事故に安心の備えを

24年度町民交通傷害保険の加入申し込み受け付けを始めます。町に住民登録をしている人（または外国人登録をしている

人）なら、誰でも加入できます。加入を希望する人は、申込書に必要事項を記入の上、保険料を添えて町民生活課に申し込んでください。加入の際には、他保険の加入状況についての告知義務があります。告知事項について、事実を記入しなかった場合や事実と違うことを記入した場合は、契約を解除することや保険金をお

支払いできないことがあります。そのほか詳しい内容については、「広報猪苗代3月号」と一緒に配布されたパンフレットをご覧ください。

- ▼保険料
1人1口360円（1年分）
2口まで加入できます。
※中途加入の場合は月割30円になります。
- ▼お問い合わせ先
町民生活課 町民生活業務
☎(62) 2114

猪苗代消防署からのお知らせ

23年中の猪苗代町内の概況をお知らせします。

※3月1日から指令センターが新しくなりました。

●会津若松地方・喜多方地方消防指令センター
☎(59) 1420 FAX(59) 1430

◆平成23年火災件数および損害

事故種別	猪苗代	前年比	
出火件数計	8	4	
出火件数	建物		
	全焼	2	1
	半焼	0	0
	部分焼	2	1
	ぼや	1	0
	林野	0	-1
車両	3	3	
その他	0	0	
損害など	焼損棟数	9	6
	罹災世帯	6	5
	死者	0	0
	負傷者	0	0

◆災害出動の推移(19年～23年)

事故種別	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
火災出動	7件	4件	2件	4件	8件
救助出動(水難を含む)	16件	11件	12件	16件	7件
その他の出動	31件	29件	28件	39件	55件
合計	54件	44件	42件	59件	70件

※その他の出動とは、火災・救助活動を除く警戒出動・風水害・自火報鳴動・虚報出動などをいいます。

◆救急出動件数および搬送人数の推移(19年～23年)

事故種別	平成19年		平成20年		平成21年		平成22年		平成23年	
	件数(件)	人数(人)								
急病事故	491	474	494	479	472	460	519	486	650	640
一般負傷	162	159	151	151	161	155	163	161	169	166
交通事故	99	143	83	115	95	126	86	127	74	90
その他の事故	110	104	124	118	114	109	116	108	117	108
合計	862	880	852	863	842	850	884	882	1010	1004

※その他の事故には、一般負傷・転院搬送・自損行為・労災事故などが含まれています。

○昨年より約130件増加しました。今後も救急車の適正利用にご協力をお願いします。

○増加件数では、4月から8月までの5カ月間被災者の増加に伴う増加傾向がみられました。

○住宅用火災警報器を設置しましょう。

■問い合わせ先 猪苗代消防署 ☎(62) 4433 FAX(62) 4530

自動車

自動車の手続きなどはお済みですか

▼24年度自動車税の定期課税

23年度は東日本大震災の影響で課税時期を延期しましたが、24年度は5月31日(木)を納期限として課税を実施します。

▼自動車の変更登録を忘れずに

自動車税は、毎年4月1日現在の自動車の所有者(割賦販売の場合は、使用者)に課税される県税です。自動車を売却してない場合や他人に譲る、廃車するなどにより実際に自分が持っている場合でも、3月末日までに管轄の運輸支局などで所有権の移転や一時抹消の登録手続きを済ませていないと、引き続き元の所有者に課税されるのでご注意ください。

なお、転居したときに住民票を異動させても、車検証上の住所と一緒に異動しません。自動車税の納税通知書は、車検証上の所有者又は使用者の住所に送付されますので、運輸支局などでの住所の変更登録も忘れずに行ってください。

▼問い合わせ先

福島県会津地方振興局

県税部 課税第二課
☎(29) 52661

閲覧・縦覧

課税台帳などの閲覧と縦覧について

24年度の固定資産課税台帳の閲覧を実施します

▼閲覧期間 4月2日(月)から5月1日(火)まで
(ただし土曜日・日曜日・祝日は除きます)

▼閲覧時間 午前8時30分から午後5時15分まで

▼閲覧場所 猪苗代町役場 税務課内(1階)

▼その他

① 閲覧の際には印鑑(認印で結構です)が必要です。

② 代理(本人および同居の家族以外)の場合は、委任状と代理人本人を確認できる書類(運転免許証など)を持参してください。

③ 閲覧期間中は、納税義務者本人の固定資産課税台帳の閲覧や名寄せの写し(コピー)の交付を、無料で受けることができます。

までに商工観光課に連絡をお願いします。

▼実施時期

・ 所在場所検査(計量器の設置場所に計量協会計量士が出向く検査)
5月7日~10日(予定)

・ 集合検査(町の指定された場所で行う検査)
6月6日~7日(予定)

▼対象者

・ 平成22年度の定期検査以降に取引上または証明上のために「はかり」を使用している人。もしくは新規に購入した人。

▼その他

・ はかりの種類によって手数料が変わります。

▼問い合わせ先

商工観光課 商工観光業務
☎(62) 21117

「税に関する習字」展示しています

猪苗代町納税貯蓄組合連合会では、毎年、町内の小学校3年生から6年生までの児童に、税について関心を持ってもらうため「税に関する習字」コンクールを開催しています。

今年は合計292点の作品が寄せられ、厳正な審査の結果、各学年で特選2点、準特選4点、佳作6点が選ばれました。

受賞作品は、3月下旬まで町役場町民ホールに展示していますので、ぜひ足を運んでください。



●問い合わせ先

税務課 ☎(62) 2113

「あなたのこころの風景」教えてください

NHK BSプレミアムのテレビ番組「につぼん縦断 こころ旅」が福島にやってきます。同番組では「何気ない風景」「思い出の風景」「忘れられない風景」「みんなに伝えたい風景」など、皆さんのこころの風景を募集しています。皆さんの心にある忘れられない風景や景色を、エピソードを添えて紹介してください。

●応募方法 番組ホームページ、手紙、はがき、FAXなどで応募してください。

●応募内容 ①住所、②名前、③電話番号、④性別、⑤年齢、⑥思い出の場所、⑦場所にまつわるエピソード(国内に限る)

●応募締め切り 4月13日(金) 必着
※福島県の放送予定は5月14日(月)~5月27日(日)です。詳しくは、番組ホームページか役場町民ホールにあるチラシをご覧ください。

■番組・応募に対する問い合わせは、NHKふれあいセンター
☎0570(066)066(ナビダイヤル) ☎050(3786)5000
FAX 03(3465)1327

土地および家屋価格等縦覧帳簿の縦覧を実施します

町内に土地または家屋を所有し固定資産税を納税している人は、それぞれ町内の他の土地や家屋の価格などについて、土地価格等縦覧帳簿や家屋価格等縦覧帳簿で縦覧することができます(ただし、個人情報保護のため所有者名、納税義務者名は記載しておりません)。

▼縦覧期間、時間、場所

課税台帳の閲覧と同じ縦覧できる人

町内に所有する土地または家屋がある納税者

縦覧の際には印鑑(認印で結構です)が必要です。

※縦覧する際は縦覧を希望する土地・家屋の所在地番が必要で、所有者名、納税義務者名による申し込みはできません。

※コピーなどの交付もできませんので、あらかじめご了承ください。

相談

行政相談委員に相談してみませんか

行政相談委員の定例相談を実施します。定例相談は毎月1回第3水曜日に開催しています。

▼猪苗代町行政相談委員

宮沢 重正さん(下館)

☎(66) 39995

▼開催日時

3月21日(水)、4月18日(水)

午後1時~午後3時

▼場所

町役場3階日本間

▼その他

相談無料・秘密厳守

▼問い合わせ先

総務課 秘書広報業務

☎(62) 21111

人権擁護・行政相談委員合同相談会

町では、次の日程で人権擁護委員と行政相談委員の合同相談会を開催します。人権問題や法律についてこの機会にぜひご相談ください。

▼開催日時

4月5日(木)

午前10時から午後3時まで

▼場所

町役場3階 日本間

▼その他

相談無料・秘密厳守

▼問い合わせ先

掲示板

告示

総務課 秘書広報業務
☎(62) 21111

・ 第160号「差押解除通知書の公示送達について」
(税務課収納業務)

・ 第161号「参加差押書の公示送達について」
(税務課収納業務)

・ 第162号「猪苗代町ひとり親世帯除雪支援事業実施要綱」
(保健福祉課社会福祉業務)

・ 第163号「不動産等の最高価申込者決定通知書の公示送達について」
(税務課収納業務)

・ 第164号「交付要求書の公示送達について」
(税務課収納業務)

・ 第165号「国民健康保険被保険者証無効告示」
(町民生活課国保年金業務)

・ 第166号「配当計算書の公示送達について」
(税務課収納業務)

・ 第167号「平成23年度国民健康保険税の公示送達について」
(町民生活課国保年金業務)

・ 第168号「平成23年度国民健康保険税4期督促状の公示送達について」
(税務課収納業務)

公表します

町職員の給与

町職員の給与・定員管理などについて、町民の皆さんに理解していただくため、給与の状況や定員適正化計画の進捗状況などをお知らせします。

(特に記載がない場合は、23年4月1日現在)

●総務課 行政管理業務 ☎(62) 2111

住民基本台帳人口(23年3月末)	歳出額(A)	実質収支	人件費(B)	人件費率(B/A)	参考21年度の人件費率
16,065人	72億6,559万4千円	1億2,837万8千円	14億40万3千円	19.27%	19.2%

(注)人件費には特別職に支給される給料、報酬などを含みます

職員数(A)	給与費				1人当たり給与費(B/A)
	給料	期末・勤勉手当	その他の手当	計(B)	
150人	5億6,936万3千円	2億858万8千円	9,565万3千円	8億7,360万4千円	582万4千円

(その他の手当に退職手当は含んでいません。職員数は23年3月31日現在)

区分	給料	扶養手当	調整手当	計	平均年齢
一般行政職	326,300円	22,200円	—	348,500円	43.3歳
技能労務職	302,500円	13,700円	—	316,200円	55.7歳

区分	初任給	経験年数10年	経験年数20年	経験年数30年
大学卒	172,200円	277,200円	331,900円	405,182円
高校卒	140,100円	227,700円	295,500円	387,493円

区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
標準的な職務内容	主事	主事	主査	課長主任主査	課長	課長	
職員数(人)	4	8	57	29	6	1	105
構成比(%)	3.8	7.6	54.3	27.6	5.7	1.0	100.0

(注) 1. 町の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数です。
2. 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務です。

区分	支給別支給率		計
	6月期	12月期	
本年度	1.90月分	2.05月分	3.95月分
前年度	1.95月分	2.2月分	4.15月分
国の制度	1.90月分	2.05月分	3.95月分

(注) ただし、24年度から合計3.90月分となります。

区分	勤続20年	勤続25年	勤続35年	最高限度額	その他の加算措置など
支給率	30.55月分	41.34月分	59.28月分	59.28月分	勤続退職時4～8号給一定率1年当たり2%を超えない範囲内加算20%限度
国の制度	30.55月分	41.34月分	59.28月分	59.28月分	一定率1年当たり2%を超えない範囲内加算20%限度

特殊勤務手当(22年度)	区分	全職種
	職員全体に占める手当支給職員の割合	17.0%
	支給対象職員1人当たり平均支給年額	30,836円
	手当の種類(手当数)	6

代表的な手当の名称	支給額の多い手当	児童福祉業務手当
職員に支給されている手当	税務等業務手当、現場作業手当、児童福祉業務手当、健康指導業務手当	

時間外勤務手当	支給総額	29,145千円
職員1人当たり支給年額		188千円

区分	内容	国の制度との異同	
扶養手当(月額)	配偶者	13,000円	同
	子・父母など	6,500円	
	配偶者のいない職員の1人目	11,000円	
住居手当(月額)	16～22歳の子(加算)	5,000円	異
	アパートなどの場合最高限度額	27,000円	
通勤手当(片道2km以上の場合・月額)	交通用具使用の場合	通勤距離により2,300～45,800円の範囲内	異
	バス、電車の場合	運賃相当額	

区分	給料月額など	区分	給料月額など	
給料	町長	702,000円	議長	289,000円
	副町長	593,000円	副議長	234,000円
	教育長	556,000円	常任委員長および議会運営委員長	222,000円
期末手当	町長	(23年度支給割合) 6月期 1.40月分	議長	211,000円
	副町長	12月期 1.55月分	副議長	(23年度支給割合) 6月期 1.40月分
	教育長	計 2.95月分	常任委員長および議会運営委員長	12月期 1.50月分
			議員	計 2.90月分

区分	基準年 19年度(19年4月1日)	23年度(23年4月1日)	予定 24年度(24年4月1日)
職員数	195人	172人	177人
増員	—	—	—
減員	—	23人	18人

部門	職員数	対前年増減数	主な増減理由	
一般行政部門	議会(議会事務局)	3	0	
	総務(総務・企画・財政・戸籍・防災など)	31	0	
	税務(税の課税・徴収)	13	0	
	民生(高齢者・障害者・児童福祉など)	25	▲1	欠員不補充▲1
	衛生(廃棄物収集など)	11	0	
	農水(農林水産業振興)	13	0	
	商工(商工・観光振興)	8	0	
特別行政部門	土木(道路・住宅・公園整備など)	11	▲1	欠員不補充▲1
	教育(学校教育、社会教育、文化振興など)	30	▲3	欠員不補充▲3
	病院	0	▲1	業務完了 ▲1
	水道(上水道)	9	0	
公営事業	下水道	5	0	
	その他(国保・介護)	13	2	業務増 2
	合計	172	▲4	

- ・第169号「充当通知書の公示送達について」
- ・第170号「督促状(延滞金)の公示送達について」
- ・第171号「督促状(延滞金)の公示送達について」
- ・平成24年第1号「公売通知書の公示送達について」
- ・第2号「繰上徴収通知書の公示送達について」
- ・第3号「平成23年度国民健康保険税第5期督促状の公示送達について」(税務課収納業務)
- ・第4号「国民健康保険被保険者証無効告示」
- ・第5号「差押書の公示送達について」(町民生活課国保年金業務)
- ・第6号「参加差押書の公示送達について」(税務課収納業務)
- ・第7号「差押解除通知書の公示送達について」
- ・第8号「差押書の公示送達について」(税務課収納業務)
- ・第9号「平成23年度町県民税第3期督促状の公示送達について」(税務課収納業務)
- ・第10号「避難住民に係る事務処理の特例の除外事務について」(保健福祉課健康づくり業務)
- ・第11号「避難住民に係る事務処理の特例の除外事務について」

- 公告
- ・第46号「農用地利用集積計画について」
 - ・第47号「インターネット公売の公告について」(第6号)」
 - ・第48号「インターネット公売による不動産等の最高価申込者決定について」(第6号)」
 - ・第49号「猪苗代町都市公園の供用区域の変更について」
 - ・第50号「抑留犬公告」
 - ・第51号「農用地利用集積計画について」
 - ・第52号「(農業委員会農地業務) ※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧になるか、それぞれの担当課に問い合わせください。

町の優良堆肥を販売します

町優良堆肥製造施設は「有機の里構想」を基に、資源循環型農業の実現を目指し、町内で発生した家畜のふん尿、生ごみや下水汚泥などのバイオマス資源を堆肥化した肥料を皆さんに販売しています。



トラックで運んだ肥料を散布機(マニャスプレッター)に積み、農地に散布している様子。本年度も購入者への無料配送と無料散布を実施します。

●現在販売している肥料(小袋についてはJA中央店でも購入できます)

●特殊肥料(牛ふん+生ごみ+もみ殻)の主要な成分含有量などは次のとおりです。

- ・窒素全量 1.1% ・りん酸全量 1.4%
- ・カリ全量 1.6% ・炭素窒素量 20(C/N比)

- ・水分約 43～45%
- 製品の販売形態は、
- ・バラ堆肥(1kg当たり5円)
- ・ペレット(15kg入り小袋:180円)
- ・バラ(10kg入り小袋:120円)

●販売方法

本年度も肥料を購入する人には、無料で配達と散布を実施しますので、ぜひご利用ください。トラックの搬入路や農地の状況(急傾斜地)などにより、配達や散布ができない場合もありますので、ご了承ください。

●注文方法 町優良堆肥製造施設に電話またはファクスなどで注文してください。☎(85) 8810 (FAX 兼用)

●支払方法 JAの口座引落または役場の納付書でお支払いください。詳しくは、町優良堆肥製造施設まで問い合わせてください。

※現在販売する肥料の放射性物質の数値は、100～200ベクレル/キログラム(以下 bq/kg)程度であり、農地に利用できる範囲内となっています(セシウム134、セシウム137 合算値)。

【国の基準値 400bq/kg 以下は肥料として利用可能】

※23年4月1日現在の数値は「地方公務員給与実態調査」および「定員管理調査」を基にしたものです。

猪苗代警察署管内の犯罪・交通事故発生状況(平成24年1月31日現在)

1 犯罪発生状況

町村別	年別		増減	増減率%
	平成24年	平成23年		
猪苗代町	5	11	-6	-54.5
磐梯町	3	3	0	0.0
裏磐梯	2	0	2	
計	10	14	-4	-28.6

罪種別	町村別		猪苗代町		磐梯町		裏磐梯	
	24年	23年	24年	23年	24年	23年	24年	23年
窃盗犯計	3	5	2	3	3	2		
空き巣								
金庫破り								
事務所荒らし								
出店荒らし								
倉庫荒らし								
侵入盗その他								1
置き引き	1							
車上ねらい				1	1			
部品ねらい								
脱衣場ねらい								1
自販機ねらい								
万引き		2						
職場ねらい			1					
さい銭盗								
畑荒らし								
スキー・スノーボード盗	1	3	1	1	1	1	1	
非侵入盗その他	1			1				
自動車盗								
オートバイ盗								
自転車盗								
その他の乗り物盗								
暴行・傷害								1
詐欺・横領								
遺失物等横領								
器物損壊								
その他の刑法犯	1							
総計	4	5	2	3	4	2		
増減		-1		-1		2		

◎スキー・スノーボードの盗難が多発する時期です。チェーンロックなどで盗難被害に遭わないように自主防犯に努めましょう。

2 交通事故状況

死亡事故	0	0	0	0	0	0
増減	0		0		0	
人身事故	10	9	3	1	0	0
増減	1		2		0	

◎うっすらと雪が積もっていても路面は凍結している場合があります。

◎特に下り斜面では、速度を十分に落とし、車間距離を取りましょう。

募 集

国家公務員国税専門官採用試験を実施します

仙台国税局では、税務のスペシャリストとして活躍するバイタリティーあふれる税務職員を募集しています。仙台国税局に採用されると、税務大学校で研修を受けた後、仙台国税局管内(東北6県)の税務署に配属されます。

●受験資格

1. 昭和57年4月2日から平成3年4月1日生まれの人
2. 平成3年4月2日以降生まれの人で次に該当する人

- ①大学を卒業した人および25年3月までに大学を卒業する見込みの人
- ②人事院が①に掲げる人と同等の資格があると認める人

●受験申込受付期間

1. インターネットでの申し込み
4月2日(月)午前9時から4月12日(木)【受信有効】
2. 郵送もしくは持参での申し込み
4月2、3日(月、火)の2日間

※受付期間が短いので注意

●受験申し込みの注意点

1. 受験を希望する人は、原則として人事院あてにインターネットで申し込みをする。

インターネット申込専用アドレス

<http://www.jinji-shiken.go.jp/juken.html>

2. インターネットでの申し込みができず、郵送または持参する場合は、最寄りの税務署、仙台国税局人事第

二課または人事院東北事務局に受験申込書を請求してください。詳しくは下記まで問い合わせください。

☎会津若松税務署 総務課

☎(27)4311(代表)

仙台国税局人事第二課試験研修係

☎022(263)1111(内線3236)

国家公務員採用総合職試験を実施します

人事院では、国家公務員採用総合職試験および一般職試験(大学卒業程度)を実施します。

●総合職試験

インターネットでの受付期間は4月2日(月)から4月9日(月)まで。インターネットで申し込みができず、郵送または持参する場合は、4月2、3日(月、火)の両日(通信日付印有効)です。第1次試験は4月29日(日)に実施します。

●一般職試験

インターネットでの受付期間は4月10日(火)から4月19日(木)まで。(郵送の場合は4月10日(水)の通信日付印有効)インターネットで申し込みができず、郵送または持参する場合は、4月10、11日(火、木)の両日(通信日付印有効)です。第1次試験は6月17日(日)に実施します。※詳しくは下記まで問い合わせください。

☎人事院東北事務局 第二課

試験係 ☎022(221)2022

人事院ホームページ

<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>

お知らせ

必ずチェック最低賃金働くすべての労働者に

最低賃金は常用・臨時・パート・アルバイトなどの名称にかかわらず、県内の事業場で働くすべての労働者に適用されます。

最低賃金件名	最低賃金額 1時間	効力発生 年月日
福島県最低賃金(下記の5産業を除く全産業)	658円	平成23年11月2日
非鉄金属製造業	770円	平成24年1月19日
電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業	724円	平成24年1月19日
輸送用機械器具製造業	758円	平成23年12月16日
計量器・測定器・分析機器・試験機・測量機械器具・理化学機械器具、時計・同部品、眼鏡製造業	757円	平成23年12月18日
自動車小売業	754円	平成23年12月15日

(注)一部に適用除外業種や業務があります。詳しい内容については、下記に問い合わせください。

☎福島労働局賃金室

☎024(536)4604

会津若松労働基準監督署

☎(26)6494

相 談

法テラスの被災者専用フリーダイヤルに相談

日本司法支援センター(法テラス)では、昨年11月から「震災法テラスダイヤル」を開設しています。二重ローンや相続など、被災者が直面する法的な問題について各種法制度や相談場所を電話で紹介いたします。

●震災法テラスダイヤル

☎0120-078309

●業務時間

平日：午前9時から午後9時まで
土曜日：午前9時から午後5時まで
その他のご相談(借金・離婚・相続など)は法テラスサポートダイヤル

☎0570-078374

日本司法支援センター福島地方事務所(法テラス福島)

☎050(3383)5540

引っ越しが増える季節「引越相談所」に相談を

引越シーズンのピークとなる3月、4月の2カ月間、トラック事業者の団体である県トラック協会では、引越相談所を開設し電話などによる相談に応じています。引っ越しについて分からないこと、教えてほしいことなどがありましたら、ぜひ引越相談所へご連絡ください。

●相談受付時間

平日の午前9時から午後4時まで
ファクスは終日受け付けます。

☎県トラック協会会津支部

☎(24)4855 FAX(25)2199

県トラック協会郡山支部

☎024(963)0780

FAX024(963)0781

相続・遺言・後見など公正証書作成の相談に

会津若松公証役場では、無料公証相談を実施します。下記の内容について、皆さんからの相談に無料でお答えします。

- ①公正証書の作成についての相談
- ②私文書や会社定款の認証についての相談
- ③確定日付の付与についての相談

●開催日時 4月16日(月)、17日(火)、19日(木)、20日(金)の4日間。午前9時から午後7時まで。(要予約、昼休みを除く)

●開催場所 会津若松公証役場

☎会津若松公証役場 ☎(37)1955

プライバシー保護のため、ホームページ掲載分の
メッセージは削除しました。ご了承ください。

町の人口

24年2月1日現在の現住人口	15,844人
人口	15,844人
世帯数	5,001戸
出生	6人
転入	28人
死亡	18人
転出	12人

今月の納期 ●上下水道使用料
(納期限3月25日) 3月分

※広報に氏名の掲載を希望されない場合は、窓口にお申し出ください。

編集後記

▼東日本大震災から1年が経過したが、一部が壊れた家の修理などはなかなか進んでいない。震災後の需要が多いため、工務店などが忙しく、手が回らないそうだ。身近な所でも、なかなか復興は進まないなと思った。

▼日本全体で見れば、被災がけの処理が進まないことがニュースになっている。太平洋沿岸部の市町村などから出た被災がけのうちの、処理が済んだのは6割だという。東北以外の市町村で、がれきの受け入れを表明した自治体はわずか。放射線量などが気になるのは分かるが、きちんと測定した、科学的な根拠に基づいて判断してほしいと願う。震災後、よく聞くようになった絆という言葉。こうしたところで本当の意味での絆が試されるのかもしれない。

▼復興への道のりは、まだまだ長い。これからも息の長い取り組みが必要だとあらためて感じた。(大坂)

